

序 言

東京都江戸東京博物館では、平成5年の開館以来、江戸・東京の歴史に関する調査・研究を行って来ており、その成果を展示、刊行物（調査報告書や紀要など）、えどはくカルチャー、シンポジウムなどを通して公開しています。その一環として、都市歴史研究室では平成22年度に年間特定研究「江戸の町の制度と暮らし」を実施しました。本研究では、主に江戸の町名主に着目し、町名主を通して都市江戸の支配制度や人びとの暮らしについて分析を行うとともに、当館が所蔵する町名主の資料の調査を進めて参りました。これらの調査・研究の成果をもとに、平成23年2月19日にシンポジウム「江戸の町名主―町の仕組みと名主の生活―」を開催しました。またこれに合わせて、シンポジウム関連講座「江戸町名主の明治」、常設展示室における特集展示「江戸の町名主」を実施し、図書室においては「江戸の町名主」関連図書コーナーを設置しました。本報告書は、これらの成果を一書にまとめたものです。

この報告書には、シンポジウムと関連講座における報告をもとに書き下ろされた研究論文とシンポジウムの事業概要及び当日のパネルディスカッションの記録を掲載しました。また巻末には、東京都江戸東京博物館が所蔵する江戸の町名主に関連する資料目録と、江戸の町名主に関する研究文献目録を収録しています。本報告書が、江戸の町名主についての理解を深め、今後の研究を推進する一助となりましたら幸いです。

なお、報告書のタイトルにもある「町名主」の語については、『国史大辞典』の「町名主」の項に「史料上には名主とみえ、町名主は農村の名主と区別するために用いられる語である」とあるように、史料に基づく正式な呼称ではありません。本報告書では、農村部の名主ではなく都市江戸の名主を取り上げるという趣旨を、より広くより明確に示すことを第一義として、一般にも広く知られている「町名主」の語を「名主」と同義のものとして使用しております点をここに申し添えておきたいと思います。

最後になりましたが、原稿をお寄せ頂きましたシンポジウムのパネリストや関連講座の講師の方々をはじめとして、本報告書の刊行にあたり多大な御理解・御協力を頂きました方々に、心より御礼申し上げます。

平成24年3月
東京都江戸東京博物館
都市歴史研究室